

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会  
〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

## 水爆と第五福竜丸

小野 周

一九五四年三月の二〇日過ぎのことであつたと思います。私は当時九州大学工学部の助教で、福岡にいました。放送局に頼まれて街の中心である新天町の街頭で、集まった市民との対話集会を行いました。テーマは三月一日に行われたビキニの水爆実験で放射能の灰を被って一四日に焼津の港に帰った第五福竜丸、それから続々と放射能で汚染された鮪などをつんで帰港した漁船のことでした。この時点ではまだ集まった人たちの気持ちに大した盛り上がりはなく、ただ一人漁船の乗組員が不安を訴えたのが印象的でした。私はその四月に東京大学に転任しましたが、九月に福竜丸の久保山さんが亡くなりました。また俊鷗丸がビキニ周辺の海域の調査を行い、水爆による汚染の実態が明らかになり、鮪などの放射能が水爆実験によるものであることは全世界が認めました。原水爆とその実験にたいする科学者の反対の動きも高まり、五年にラッセル・アインシュタインの原水爆実験反対の宣言がございそれれに感動しました。

一九五七年から五八年まで私はヨーロッパにいたため原水爆問題にはあまり触れる機会がなく、日本の事情に関しては殆どわかりませんでした。私がブラッセルにいる間研究室の人たちと時々議論をしましたが、核兵器に関することは殆ど知らないといった方がいくらいでした。広島・長崎の話をする、第二次世界大戦の末期のドレスデン大空襲の話がこれとあまりかわらないといつて引き合いに出されました。今では核兵器にたいするヨーロッパの人たちの空気はまったく変わってきただけですが、当時は軍縮といえば通常兵器だけが考えられていたようです。五八年に新聞SOIR紙がH爆弾ということで特集をしたので、ブラッセルの人はそれを読んで初めて知ったと同時に吃驚したようでした。アパートの家主の息子は大学の医学部の学生でしたが、私にこの話をしていました。千キロメートル以上も離れたところにいる漁船が被爆したのには全く驚いた様子でした。

止期間中でしたが、六一年から再開されて大気汚染が始まりました。あるとき秘密の情報として北極を通過してきた旅客機のエンジンを羽田で整備するときに、僅かながら放射能が検出されたということを書きました。もういつまでも実験は続けられないということでした。六三年には部分的核実験禁止条約が締結され大気圏内の米ソ等の核実験は停止され六三年以降大気放射能汚染は急激に減少しました。第五福竜丸は六七年廃船になり、その後関係者の熱意と努力により保存されることになって七五年に東京都に移管され、翌年第五福竜丸展示館が発足したことはご存じの通りです。七七年に被爆問題国際シンポジウムが開催され、それに参画することになり、同年から原水爆禁止世界大会が統一して開催されることになり、私も積極的に参加しました。八二年の大会はINFのヨーロッパ配備を控えて熱気が感ぜられ、二四年前のブラッセルでの体験とは全く違いました。それに比べてヴェネツィアのサミットでアラスカにINFを配備するという恐ろしい話が日本から平気で出てくる雰囲気を感じて、本気で出ていると恐ろしい話だと思ひます。

(第五福竜丸平和協会評議員)

## 来館者の声から

天候雨。日曜日。雨にたたられたが神奈川のグループとして見学させて頂いた。人類と核との共存はあり得ない。このようなむごたらしいことは二度とあってはならない。歴史の生き証人としての第五福竜丸健在なり。一人でも多くの人たちに見て頂きたい。

私個人としての感想も一言。歴史に対する無知に対していきどおりを感じ、しばし絶句となった。57歳としてはずかしい限りだ。以上。(大竹信吾)

写真で赤ちゃんの指が六本でした。ほうしやのうがふって、やさいにほうしやのうがついて、それを食べたから指が六本になったかもしれません。せんそうで苦しんで死んだ人々を考えるとなきたくありません。(江東区・鰐淵優子)

## 第五福竜丸平和協会設立記念集会ひらく

展示館の開設11周年と協会設立14周年を祝って、「記念集会」が六月二十二日、協会ゆかりの日比谷公園・松本楼でひらかれました。三宅会長のあいさつと、展示館の概況報告のあと、尾崎陞弁護士の方々の多くからスピーチがあり、保存運動の歩みをしたのびつつ新しい発展への誓いを交歓しました。福竜丸乗組員大石又七さんは、去る三月亡くなった同僚山本忠司さ

んへの想いをこめて展示館への期待を語り、かつて被災資料集の編集に力をつくした林茂夫さんは、いま協会は何をするか、真価が問われていると厳しい注文を述べました。科学者、労働・青年・婦人平和の運動家、報道・出版・詩人、句人・画家と協会の活動を反映して参加者は広範で多彩、ビキニ被爆詩集の紹介、第五福竜丸の生涯を描く新しい絵本出版の計画も紹介されて、夢もふくらみました。記念集会終了後、新しい評議員による評議員会がひらかれ15名の評議員・理事が出席しました。

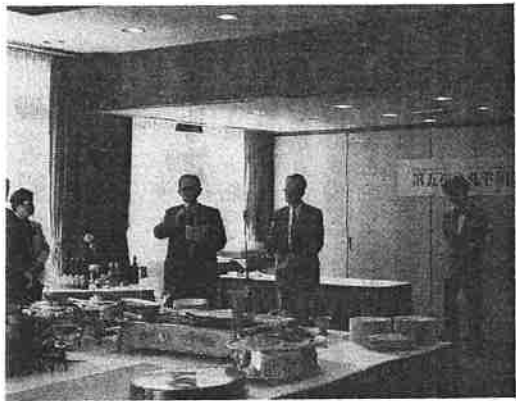
ちょうど去日「ATOMIO CAFÉ」なるビデオをみて久しぶりにこの船の名を思い出した。私はこうしてバスツアーでここに来るまでこの船がまさか保存されていたなんて知らなかった。もう他の漁船のようにスクラップになっただけだと思つてたが、こうしてちゃんと管理して、しかも都がやっているということが少しうれしかった。(横浜市・山本雅弘)

### ●いただきました

七月五日、神奈川県水産試験場の江川公明さんから、ガイガー検数管一式が贈られました。事件当時、三崎港で使用されていたもので、既に廃棄処分になっていた機械を保存していた江川さんが、何かの役にたてばと持参されました。同日、東京の小沢謙吉さんからダンボール五箱分の原水爆にかんする書籍・雑誌が贈られました。

### ●お知らせ

読者から要望のあった映画「第五福竜丸(新藤兼人監督)」のビデオテープが展示館にあります。



平和随想 (六)

三宅 泰雄



をのせませす。

親愛なるヴォルチック博士殿、一九八〇年三月二十八日 ジョーン・ハリー博士がまもなくEMLを退官される由のお手紙を拝見しました。

私がハリー博士に初めてお会いしたのは一九五四年秋のことでした。その春にビキニ環礁で一連の水爆実験(キャツスル・テスト)が強行され、その結果、海洋と大気が著しく汚染されました。第五福竜丸の船員は「死の灰」を浴び、放射能症で苦しみました。

一九五四年十一月、東京で開かれた日米放射能会議には、原爆の開発以来、世界の環境に及ぼす影響調査に従事してきた原子力委員の保健安全研究所(HASL)から所長のアイゼンバッド氏と所員のハリー博士が参加しました。ビキニ事件のさい、いち早く焼津に駆けつけたのが、アイゼンバッドでした。ハリーはその後HASL(のちに環境計測研究所EMLと改称)の所長となり、一九八〇年に定年で退官しました。そのとき、所員のヴォルチック博士から、私にハリー博士への祝辞を送ってほしいとの依頼がありました。

この事件に関し科学的な意見を交換するため、日本学術会議と米原子力委員会が十一月、東京で日米放射能会議を開きました。両国首席代表はそれぞれ木村教授とピアソン博士で、ジョーンと私は中堅メンバーとして列席しました。その翌年四月、ジョーンは「トロール作戦」の指揮官として、スクリップス海洋研のウイスター博士らと共に沿岸警備隊の巡視船タニ1号で再び来日しました。水爆による放射能汚染の調査がその目的でした。それ以来、私たちはニューヨーク市その他、米国、ヨーロ

ッパ各地で開かれた国連科学委員会、国際原子力機関(IAEA)等の会議で、しばしば顔を合せました。二人は放射線影響学の国際協力のために尽力してきました。しかし、おかしなことは、彼の再訪日までに、四半世紀もの歳月を要したことです。

昨年、日本放射線影響学会は創立二〇周年を記念し、大阪で国際シンポジウムを開催しました。私は組織委員長の眞室博士から、ハリー博士の旧友として、博士に連絡してほしいと頼まれました。私はその申出を快く受け、学会を代表してジョーンに記念講演の招待状を送りました。十年か、それ以上を経たのち、ジョーンに再会し、共にすごした日々は私には、最高に楽しい毎日でした。

なぜなら、その間私は上顎がんに侵され病に苦しんでいました。また奇跡的に一命を救われましたが、治療の後遺で不具同然の身となりました。その上、高齢の故もあって、数年前から国際、国内の公職を退いていたからです。ハリー博士は、今さらいうまでもなく、卓抜した科学者であり、米国のみならず、放射線影響学の

世界的な先駆者、指導者でもあります。科学のこの新分野への彼の貢献は偉大なものです。しかし博士の人柄を語る上で、最も大切なことは、彼が優れて高いヒューマニティーの持主だということです。彼はいつでも、どこでも、あの魅力的な微笑とユーモアを絶やすことなく、私に親切でした。

多年にわたり、HASLとEMLで成しとげた彼の偉大な成功と献身を、旧友として心から祝福いたします。日本の同僚に代り、博士が退官後もなお、研究活動を続けられるよう望みます。今後も博士が健康を保って、日日の生活を楽しみ、今度は自由人として、旧友との再会のために、また日本を訪れてほしいと願っています。何卒、ハリー博士に呉々も宜しくお伝え下さい。 敬具

世界の平和、それは世界の人々の相互理解と友情の上に築かれるものと、私はかく信じています。



被災船掘り起こし——神奈川

神奈川高教組 柴田 健

6月21日、『ピースバス・イン・トーキョー』と銘うって、私たち神奈川高教組平和運動推進委員会は、第五福竜丸・靖国神社(もちろん反靖国の立場で)・千鳥ヶ淵戦没者墓苑などを見学した。

福竜丸では三尾さんにていねいに解説していただき、高校生を含む40名の参加者は理解を深めた。



また、被災船を雑誌『蒼』を舞台として追究されている中本貴之氏にも掘り起こしの状況及び、三崎漁港周辺の今を語っていただいた。参加者の大部分は福竜丸以外の被災船については初耳であり、衝撃を受けた。

高知の被災船掘り起こし運動に学んだ神奈川の教員は数多い。しかし、現段階では私たちの委員会・歴教協高校支部・神奈川高教組社会科教研グループのいずれも三崎の被災船に取り組む決心がついていないのが正直なところである。私たちの『かながわ平和通信』の第25号(6月刊)では、「被災船を追う」と題して雑誌『蒼』からの引用を主に特集を組ませていただいた。組合員を含め県内中心に四千部を配布したので、関心の広がりには若干寄与できたのではと考えている。

なぜふんざりがつかないのか。一五六隻と伝えられる三崎所属船の量。都市化の進んだ神奈川にお

船内に初めて入って感激

千葉県高校生平和ゼミナール

昨年10月より再出発を準備してきた千葉県平和ゼミナールは11月の学習会の後、具体的に活動をしようということで今回の「第五福竜丸見学とすいとん試食会」を実施し、全県より20名が参加しました。10時30分現地集合。三尾さんより館の由来、第五福竜丸の歴史、現在調査中の88隻の被災船のことなど一つ一つていねいに説明していただきました(詳しくは後日発行のパンフを参照して下さい)。

その後、一般見学では入れない第五福竜丸の船内に入って、船の構造から、歴史まで、実物を見、臭いをかきながら説明を聞くことができました。

ける三崎(三浦市)の地域性。これらを考えると二の足を踏まざるをえないのである。

中本氏によると、地元紙である神奈川新聞(国家秘密法反対のキャンペーンを精力的に行っている)の支局員、あるいはNHKなどが取りあげる動きがあり、一部の医

1時すぎより、外ですいとん作りと折鶴を折りました。船橋西部婦人会の方のご指導により、戦時中のお話を聞きながら、当時よりはおいしいすいとんを1時間以上かけて、つくりました。寒い日だったので、この暖かいすいとんの味は忘れません。

その後、自己紹介、感想を一人一人言い、婦人会の方より、戦争体験談などを聞きました。

いよいよ千葉にも高校生平和ゼミナールが結成されました。今、基地調査、夏の全国高校生平和集会や、日常的平和学習などの計画を立てているところです。

当面明るい展望はないが、少しずつ呼びかけていきたいと考えている。

△中山文夫・小幡勉▽

